

編集後記

今号も、諸般の事情で発刊が大幅に遅れたことを心からお詫び申します。ご催促や励ましのお葉書を頂いた方もあり、親鸞教学の責任の重大さを痛感しています。改めて、お詫び並びにお礼を申します。

今号は、廣瀬先生に、同和問題を、人間解放という視点から御自身の念仏往生の課題とされた論稿を頂きました。現在に生きる親鸞の学徒として、どこで時代社会の問題をわれわれの成仏道の課題とし得るのかを、強く教えられる事であります。又、神戸先生には、先号に続いて『阿闍世論』を投稿頂き、仏法と王法という大きな見地から、われわれの求道の課題を明らかにして頂きました。

さて、曇鸞は、龍樹に決定せしめられた易行の仏道に立って、仏道が成じ難い時代社会の問題性を五難として挙げ、それを「五濁の世、無仏の時」という一語で押えています。「無仏の時」とは、何が真実か何が不真実かを、決定できない時代状況を言うのです。そこでは、無反省な自己主張が限りなく行なわれます。

その自我的在り方そのものが問われないままに、時代社会の問題を仏道の課題として抱え込もうとすれば、社会の多様な価値観に埋没して、仏道ならざるものと変容せざるを得ません。また逆に、仏道である事を守ろうとすれば、社会と相對する自我的発想のもとでは、結局、社会の問題を切り捨てるしかありません。このような我々の在り方を押えて、「ただこれ自力にして、他力の持つなし」と教えています。これは、龍樹の教えに帰した曇鸞の深い懺悔の言葉です。仏道に帰したわが身の懺悔の内容として、時代社会の問題が見抜かれ荷われないう限り、少なくともそれは、われわれの成仏道の課題とは成り得ないことをよく教えるものであります。

問われるべきことは、その様な時代状況を造り続けてきた人間存在そのものの問題であり、その時代状況に関わっているわれわれの主体の問題であります。ここに、仏道が真に問うている課題があることを、改めて想うことです。(延塚)

昭和62年1月15日 昭和62年1月20日	印刷 発行	親鸞教学 第49号 定価 900円
	編集 発行	京都市北区小山上 総町 22 大谷大学真宗学会 親鸞教学編集部 発行人 細川行信 大谷大学真宗学会 振替 京都 6-8225番
	発売	京都市中京区寺町通三条上ル 文栄堂書店 振替 京都 8-2948番
	印刷	京都市下京区七条御所ノ内中町50 中村印刷株式会社 電話 (313) 0468番